

労働映画百選通信 No.18

2017.05

発行 ■ NPO法人 働く文化ネット 編集 ■ 清水浩之 〒101-0062 千代田区神田駿河台3-2-11 連合会館5F

第39回 労働映画鑑賞会

労働映画祭2017 ~子どもの目で見た、哀しき「サラリーマン」~

働く文化ネットでは、ワークルール啓発事業、労働資料保存展示とならぶ基本事業として、労働映画の保存・上映・研究に取り組んでいます。昨年6月11日には『日本の労働映画百選』を刊行し、記念シンポジウム・映画上映会(『にあんちゃん』)も開催しました。これを機に、毎年6月を「労働映画祭月間」とし、毎月第2木曜に定例開催の労働映画鑑賞会とは趣向を変えたプログラムを企画することといたしました。

今年は、小津安二郎監督の名作サイレント映画を、活動弁士・ハルキさんの語りでお届けします。ぜひ、多くの方々にお楽しみいただきたいと存じます。ご来場をお待ちしております。

・開催日: 2017年 6月 8日(木) 18:00~ (参加費無料・事前申込不要)

・会場: 連合会館 2階大会議室 (地下鉄 新御茶ノ水駅 B3出口すぐ)

・上映作品 **大人の見る繪本 生れてはみたけれど**

【労働映画百選No.06】 1932年/91分/モノクロ/サイレント

製作/松竹蒲田撮影所 監督/小津安二郎 脚色/伏見晃 撮影/茂原英雄

出演/斎藤達雄 吉川満子 菅原秀雄 突貫小僧 坂本武 笠智衆 ほか

昭和7年、東京郊外の新興住宅地。会社員の父が、同級生の父親に服従するのを見た兄弟は憤慨し、それまで逆らったことのない父に反抗するが...

語り/ハルキ(活動弁士)



【DVD】松竹

日本の労働映画百選 <http://hatarakubunka.net/>

『明治の日本』(1897)から『下町ロケット』(2015)まで!“働く姿”を描いた百本をセレクト

映画は日本の仕事と暮らし、働く人たちの悩みと希望、

働くことの意義と喜びをどのように描いてきたのか。

働くことの今とこれからについて考えるために、一世紀余の映画史の中から百本を選びました。

明治の日本/川崎三菱労働争議/何が彼女をそうさせたか/第十二回東京メーデー/隅田川/生れてはみたけれど/有りがたうさん/戦ふ兵隊/煉瓦女工/機関車C57/或る保姆の記録/

わたし達はこんなに働いてある/鷲進/炭坑/われら電気労働者/海に生きる/

白雪先生と子供たち/どっこい生きてる/生きる/おかあさん/1952年メーデー/

女ひとり大地を行く/蟹工船/京浜労働者/太陽のない街/立ち上がる女子労働者/

ここに泉あり/赤線地帯/喜びも悲しみも幾歳月/ボタ山の絵日記/雪と闘う機関車/

にあんちゃん/海に築く製鉄所/刈千切り唄/年輪の秘密/大いなる旅路/裸の島/

1960年6月 安保への怒り/西陣/キューボラのある街/その場所に女ありて/ある機関助手/

ドキュメント 路上/68の車輪/こころの山脈/若者たち/農業禍/和賀郡和賀町/黒部の太陽/

太陽の王子 ホルスの大冒険/男はつらいよ/シップヤードの青春/家族/戦争と人間 三部作/

友子儀式/日本の稲作/詩人の生涯/トラック野郎 御意見無用/どっこい!人間節/日没の印象/

男たちの旅路/日本の戦後/あゝ野麦峠/ザ・サカナマン/遠雷/海峡/原発はいま/

魚影の群れ/ガン・ホー/マルサの女/母さんが死んだ/魔女の宅急便/あーす/

月はどっちに出ている/踊る大捜査線/鯨捕りの海/鉄道員 ぼっぼや/

人らしく生きよう 国労冬物語/こんばんは/県庁の星/フラガール/三池 終わらない炭鉱の物語/

ハゲタカ/ハケンの品格/おくりびと/フツの仕事がしたい/

ブラック会社に勤めてるんだが、もう俺は限界かもしれない/任侠ヘルパー/孤高のメス/

昭和の家事/サウダーヂ/舟を編む/ある精肉店のはなし/ダンダリン 労働基準監督官/

WOOD JOB!/紙の月/夢は牛のお医者さん/昼めし旅/種まく旅人 くにうみの郷/下町ロケット

【作品ガイド】『大人の見る繪本 生れてはみたけれど』 "I was born, but..."

昭和7年のニュータウン、子どもの目で見た「人生」

大正から昭和の初め頃、都市に住む新しい庶民階級としての「サラリーマン」が増えたことから、彼らの生活や心情を描く「小市民映画」というジャンルが生まれた。松竹蒲田撮影所は、青年所長・城戸四郎が「明朗な現代劇」路線を打ち出した結果、アメリカ映画を手本にモダンな都市生活者を描いた映画を得意とするようになり、島津次郎、五所平之助、清水宏、成瀬巳喜男といった若手監督が秀作を生み出す。

その中でも小津安二郎は、『大学は出たけれど』(1929)『東京の合唱(コーラス)』(1931)などの諸作を通じて、大都会で学生や会社員として暮らす若い世代をリアルに描く作風を確立していった。29歳で発表したこの作品は「小市民映画の決定版」として高く評価される。

東京郊外の新興住宅地に、都心から引越してきたサラリーマンの吉井さん一家。小学生の兄弟は、さっそく地元の同級生グループに喧嘩を吹っかけられ、どうすればこの場所で生きていけるかという問題を抱える。二人は子ども社会独特の「政治的駆け引き」を使ったりして、ようやく居場所を得るのだが、その後、少年たちの間での父親自慢をきっかけに、「実力第一主義」とは違う大人の世界を垣間見てしまう。“うちではあんなにおっかない父さんが、太郎ちゃんのお父さんにはペコペコしている。会社の専務さんらしいけど、太郎ちゃんは僕らの「家来」なのに…”

「会社員の子どもは、大人になってもお金持ちの家来にしかなれないの？」幼い兄弟から異議申し立てを受けて、今の生活にささやかな幸せを感じていた両親は動揺する。『生れてはみたけれど(英題:I was born, but…)』というタイトルの通り、これから続いていく人生の「行き先」に薄々気づいてしまった兄弟と、父としての威厳を失った吉井さんとの、言葉にならない“表情での会話”が、観る者の心に深く残る。

撮影現場は、松竹蒲田のスタジオに近い東京南部の矢口地区。兄弟が引越してきた庭付き一戸建ての前を、目蒲線(現・多摩川線)の電車が1両、ガタゴトと走る80年前の風景は、住宅や工場が密集した現在の姿からは想像できないのどかさだ。子どもたちが父親自慢をする場面では、地元で働く職人や商店主、鶏を飼う農家などが紹介されるが、そこに吉井さんのような「通勤者」がやって来て、急速に宅地化が進んでいったことがわかる。矢口にある小学校では関東大震災以降の数年で児童の数が倍増したそうで、この映画にはその当時の街の様子がはっきりと映っている。

「大人になったら、お父さんより偉くなればいいじゃない」…母親にそう励まされた兄弟は、その後どんな人生を歩んだのだろうか。映画の中では平和そのものの暮らしが描かれているが、小学校の教室には、この年大きな話題となった「爆弾三勇士」の揮毫が掲げられていて、それから長く続く戦争の時代を暗示している。(労働映画百選 作品解説より)

参考文献

平川克美「隣町探偵団—小津安二郎『生れてはみたけれど』完全解析の試み」
ミシマ社ウェブサイト <http://www.mishimaga.com/tonarimachi/001.html>
DVD『大人の見る繪本 生れてはみたけれど』(松竹、定価2,800円+税)
<http://www.shochiku.co.jp/dvd/>



出演：斎藤達雄(吉井さん)
吉川満子(妻・英子)
菅原秀雄(兄・良一)
突貫小僧(弟・啓二)
加藤清一(太郎)
飯島善太郎(亀吉)
坂本 武(岩崎専務)
小藤田正一
(酒屋の小僧・新公)
西村青児(先生)
笠 智衆
(映写機を回す部下)
ほか

【上映情報】労働映画列島！5月～6月 ※《労働映画列島》で検索！<http://d.hatena.ne.jp/shimizu4310/00170603>



◎新作ロードショー

ちよっと今から仕事やめてくる 《5月27日(土)から 東京 TOHO日本橋ほかで公開》
北川恵海の小説を、福士蒼汰と工藤阿須加の共演で映画化。ノルマの厳しい仕事に疲弊した青年が、幼なじみを名乗る男との出会いを通して生き方を模索し始める。
(2017年 日本 監督/成島出) <http://www.choi-yame.jp>



Viva! 公務員 《5月27日(土)から 東京 ヒューマンラストシネマ有楽町ほかで公開》
イタリアで大ヒットしたコメディ。子供の頃からの夢だった公務員になった男が、リストラ対象にされたことから巻き起こる騒動。
(2015年 イタリア 監督/ジェンナーロ・ヌツィアンテ) <http://vivaitaly3.com/>



きらめく拍手の音 《6月10日(土)から 東京 ポレポレ東中野ほかで公開》
大工の父と、ミシン縫製工の母。耳の聴こえない両親と暮らしてきた娘が、家族の日常を切り取ったドキュメンタリー。
(2014年 韓国 監督/イギル・ボラ) <http://kirameku-hakusyu.com/>

◎名画座・特集上映



【東京 池袋 新文芸坐】5/20～30「追悼 渡瀬恒彦 銀幕に刻まれた不死身の役者魂」
…鉄砲玉の美学／皇帝のいない八月／神様のくれた赤ん坊／時代屋の女房／他
【東京 ラピュタ阿佐ヶ谷】5/21～7/22「昭和の銀幕に輝くヒロイン 第85弾 倍賞美津子」
…喜劇 女は度胸／炎のごとく／生きてるうちが花なのよ 死んだらそれまでよ覚宣言／他



【東京 京橋 フィルムセンター】5/26～6/22「EUフィルムデイズ2017」
…お母さん(エストニア)／私に構わないで(クロアチア)／ヴォイチェフ(スロヴァキア)／他
【東京 シネマヴェーラ渋谷】6/17～7/7「ミュージカル映画特集II」
…突貫勘太／シンコペーション／サマーストック／雨に唄えば／ほろよひ人生／他
【東京 ラピュタ阿佐ヶ谷】6/18～8/19「vivid: 日活文芸映画は弾む」
…女中っ子／にあんちゃん／青春のお通り／サムライの子／競輪上人行状記／他
【藤沢 鵜沼海岸 シネコヤ】5/20～6/2「北欧のおじいさん」
…幸せなひとりぼっち／ハロルドが笑うその日まで(入替制)



【川崎市市民ミュージアム】6/3～7/1「アルゴ・プロジェクト特集 1990年代傑作選」
…12人の優しい日本人／死んでもいい／喪の仕事／渋滞／ひき逃げファミリー／他
【浦安市民プラザ】6/3・4「第6回 うらやすドキュメンタリー映画祭」
…息の跡／人生フルーツ／0円キッチン／ゲイビー・ベイビー／薬は誰のものか／他
【北海道 浦河 大黒座】6/3・4「うらフェス映画祭」
…あした家族／ホドロフスキーのDUNE／現代アニメーション特集
【釜石 青葉ビル】5/25「釜石シネクラブ」…『人生、いろいろ』(2012年 監督/御法川修)
【新潟 シネ・ウインド/他】6/2～9「第27回 いしがた国際映画祭」
…カンダック・セマー／疾風スプリンター／私の少女時代／若葉のころ／他
【三重県内20会場】5/21～9/9「三重県内 男女共同参画連携映画祭2017」
…これが私の人生設計／マイ・インターン／箱入り息子の恋／この世界の片隅に／他



【京都文化博物館】6/3～25「EUフィルムデイズ2017」
…フラワーズ(スペイン)／いつまでも一緒に(リトアニア)／猫はみんな灰色(ベルギー)／他
【宝塚シネ・ピピア】5/27～6/30「午前十時頃の映画祭 文芸映画特集 第3弾」
…塚目漱石の三四郎／私が棄てた女／台所太平記／氷壁／細雪(1959年)
【神戸アートビレッジセンター】5/20～26「ポーランド映画祭2017」
…地下水道／夜行列車／夜の終りに／コルチャック先生／ワルシャワ大攻防戦
【広島市映像文化ライブラリー】6/1～17「生誕100年 山田五十鈴特集」
…浪華悲歌／現代人／女ひとり大地を行く／流れる／風流深川唄／用心棒／他
【高知県立美術館】5/27・28「巨匠が描いた明治」
…婦系図(1942年)／吾輩は猫である(1975年)／歌行燈(1943年)／春琴物語(1954年)
【福岡市総合図書館 シネラ】6/7～29「中国インディペンデント映画特集」
…静かなるマニ石／オールド・ドッグ／罪の手ざわり／山河ノスタルジア／他

【労働映画のスターたち】第20回「観月ありさ」 文：百永良武

26年連続主演！連ドラ界のイチロー姉さんが演じる 私たちの「お仕事」

毎年1月・4月・7月・10月と、日本の「連ドラ」＝連続テレビドラマの大多数は3か月ごとに新番組がスタートし、大体10話から13話のシリーズを放送する。主演俳優は舞台公演の「座長」のような存在で、その時代のトップスターの証明でもあるが、観月ありさんはなんと26年連続で主演を務め、現在もギネス記録を更新中だという。まさに連ドラ界のイチロー、いや「イチロー姉さん」とお呼びしたい存在だ。

15歳の時の初主演作『放課後』（1992、フジテレビ）から、今年4月スタートの『櫻子さんの足下には死体が埋まっている』（2017、フジ）まで、合計で30作。20歳の時の大ヒット作で、その後も続編や映画版が作られた『ナースのお仕事』（1996、フジ）以降、看護師、会社員、教師、お天気キャスター、旅客機のキャビンアテンダント、専業主婦など、現代に生きる女性たちのワーク＆ライフを演じ続けている。「仕事」ではなく「お仕事」という表現が重要なポイントで、出世より玉の輿、職場でのヤリガイより定時退社やステキな男性との出逢いを求める「割り切った」人生観が、役柄に共通していると思う。「女性活躍社会」以前のこの国に生きる同性の視聴者にとっては、身近な同僚の姿そのものだろうし、自分自身の未来像にも見えてくるだろう。

1976年、東京生まれ。4歳で子役モデルとなり、大人の中で「仕事」をしてきたことが彼女の「お仕事」観を育てたのかも知れない。中学生の頃、雑誌やCMでの「神秘的な美少女」ぶりが注目され、宮沢りえ・牧瀬里穂とともに「3M」と呼ばれるトップアイドルとなる。スラリと伸びた手足と小顔で、8頭身以上とも言われる抜群のスタイル。10代の頃はキラリとした眉で、あまり笑わないクールな表情が求められていたが、男の子のように活発な性格が知られるようになると、バブル期の余韻が残る「イケイケ」なドラマ界で、メグ・ライアンのような美人コメディエンヌへの道が開けていく。

『ナースのお仕事』では着任早々、制服をミニスカに「改造」して先輩ナースに叱られる「今どきの若い娘」として登場。職場でドジや失敗を繰り返しながら、明るく元気に成長していくヒロイン＝朝倉いずみを、マンガのように大きなアクションで堂々と演じきったことで、子供からシニアまで、男女を問わず幅広い世代の人気を集めた。『私を旅館に連れてって』（2001、フジ）の女将、『あした天気になあれ』（2003、日テレ）のシングルマザーを経て、ダンナを尻に敷く「強い奥さん」を快演した『鬼嫁日記』（2005、関テレ）のヒットで、連ドラのアペラージュヒッターとしての地位を不動のものにする。その後も国民的人気漫画の実写版『サザエさん』（2009、フジ）など、他の女優さんにはハードルの高そうなコメディ演技もきっちりこなしていった。

30代以降は有能なキャリアウーマン役を演じることも多くなったが、今度は「女性の生き方」の岐路に立って葛藤する姿が印象に残るようになる。結婚・出産を機に退社し、専業主婦になった『斉藤さん』（2008、日テレ）は、幼稚園の「ママ友社会」の旧弊に異議を申し立てる孤高のヒロインで、同調圧力との闘いを繰り返した。出産をテーマにした映画『BABY BABY BABY!』（2009、監督・両沢和幸）では、雑誌編集者としてバリバリ働いていた主人公が「酒の勢い」で妊娠したことから、出世も復職も諦めなくてはならないシビアな現実と直面するが、個性豊かな妊婦たちとの交友を通して、長い人生で「本当に大事なことは何かを見つめ直していく。生活費節約のため高級マンションから公団住宅へ引越す描写など、独身女性から見ると「夢も希望もない」展開が続くが、だからこそ映画の最後、赤ちゃんが次々と産まれてくる場面には余計に感激してしまうのだ。

『ハケンの品格』（2007）の脚本家・中園ミホによる『OLにつぼん』（2008、日テレ）は、当時話題となっていた企業の「アウトソーシング」をテーマにした社会派ドラマ。総務の仕事を中心に委託することになった会社で、職場を失う危機に晒された日本のベテランOLが、中国側の研修生を指導する日々の中、対立から融和への道を探っていく。言葉の違い、慣習の違いで衝突を繰り返しながらも、中国の女性たちの「仕事」への真摯な姿勢に共感したヒロインは、やがて日本独特の「お仕事」を見つめ直し、自分たちが働きやすい職場を求めて新たなビジネスを起こす。視聴率は振るわなかったようだが、「恋愛ものだけがドラマじゃない」という、作り手の気概を感じた。

近年は、アラフォー婚活に苦闘するキャリアウーマンに扮した『ご縁ハンター』（2013、NHK）や、水商売で培った包容力を発揮する定時制高校の教師役が魅力的だった『夜のせんせい』（2014、TBS）など、新たな領域も広げている。これからも「今どきの40代」を演じる女優として活躍し続けてほしいし、クールな美貌を前面に出した文芸映画やミステリーなどにも、どんどんチャレンジしていただきたいです！

参考図書＝『リップクリーム』観月ありさ（東京ニュース通信社、1998年）

『スキップしたり、ごろんだりーわたしたちの幸福論』JUNON編集部（主婦と生活社、2002年）



ナースのお仕事（1996）



鬼嫁日記（2005）



OLにつぼん（2008）



BABY BABY BABY!
（2009）



夜のせんせい（2014）



櫻子さんの足下には
死体が埋まっている
（2017）